「解答解説編」について

解答　太字体で示しました。

出典　成立時期・編者者・特色などの作品の基本情報を掲載しました。

口語訳　原文に忠実な、分かり易い現代語訳を心がけました。

設問解説　チャート・図解・コラムを盛り込み、正解への道筋を詳しく丁寧に解説し、自学自習にふさわしいものとしました。

重要語　重要な古文単語の確認・強化に利用してください。

読解のポイント　設問を解く際にポイントとなる箇所を取り上げました。

文法のチェック　古文読解に際して重要な文法力、受験に即した文法力の強化に利用してください。

難　とりわけ難度の高い設問に付しました。

目次

日本大学
1　古今著聞集　4
2　とりかへばや物語　8
3　平家物語　11

東洋大学
4　十訓抄　18
5　源氏物語　24

駒澤大学
6　あきぎり　30
7　栄花物語　36

専修大学
8　奥の細道　42
9　平家物語　47

京都産業大学
10　更級日記　54
11　和泉式部日記　59
12　成尋阿闍梨母集　64

近畿大学
13　俊頼髄脳　68
14　転寝草紙　74

甲南大学
15　大和物語　80
16　雲萍雑志　85

龍谷大学
17　大和物語　92
18　都のつと　96
19　堤中納言物語　101

1 古今著聞集

日本大学　文理

解答

〔問1〕㋐＝2　㋑＝2　〔問2〕3
〔問3〕2　〔問4〕3　〔問5〕1
〔問6〕4

出典

『古今著聞集』。鎌倉時代に成立した世俗説話集。編者は橘成季。王朝貴族の日記や記録などを資料とした約七百の説話を、神祇・文学・和歌・政道などの項目に整然と分類し、二十巻にまとめている。

口語訳

刑部卿敦兼は、容貌のたいそう醜い人であった。その北の方（＝妻）は、美しい人であったが、五節の舞を見に行きました時に、あれこれと（男性で）美しい人々がいるのを見るにつけても、まず自分の夫の醜さを残念に思った。家に帰って、（夫に対して）全く口さえもきかず、目をも見合わせず、そっぽを向いているので、（夫の敦兼は）しばらくは何事が起こったのだろうかと、納得がいかずに思っていたが、次第に（北の方は夫を）嫌がる気持ちが強くなって、（そばで見ていても）いたたまれないほどであった。以前のように一所に住みもせず、部屋を別にして住んでいました。ある日、刑部卿（敦兼）が出仕して、夜になって帰宅したところ、（着替えのための）応接間に灯りさえつけず、装束は脱いでも、（それを）たたむ人もいなかった。（家に仕える）女房たちも皆北の方の目くばせに従って、（敦兼の）前に出てくる人もなかったので、しかたなくて、（敦兼は）牛車の車庫の妻戸（両開きの板戸）を押し開けて、独りで物思いにふけっていたが、夜も更けて、静かで、月の光や風の音、（そういった）あらゆるものが身にしみわたるように感じられ、（そのうえ、）妻の仕打ちをうらめしく思う気持ちも一緒に感じられたので、心をすまして、篳篥を取り出して、その時（＝寂しい秋の夜）にふさわしい調子に音を調節して、

ませ垣の中に咲く白菊も、色あせていくのを見るのはあわれ深いことだ。私が通って会ったあの人も、このようにして（菊が枯れるように）私から離れていってしまったのだよ。

と、繰り返し歌ったのを、北の方が聞いて、（それまでの夫を嫌う）気持ちがすぐに治まってしまった。それより後はとりわけ夫婦仲むつまじくなったということである。なんと素晴らしい北の方の心根であろう。

設問解説

〔問1〕㋐「かたはらいたし」は、「傍らで見たり聞いたりして、心が痛い」ことを表す語。本文では、北の方が夫を嫌がる気持ちが強くなり、「かたはらいたき」（傍らで見ていても心が痛い）、つまり、いたたまれないほどだったということ。

重要語

「かたはらいたし」の意味
①いたたまれない。②みっともない。
③気の毒だ。

㋑「しづかにて、月の光、風の音、物ごとに身にしみわたる」（7ℓ）るような秋の夜に、妻への「うらめしさ」（8ℓ）も募る敦兼だったが、「心をすまして」（8ℓ）、その秋の夜の趣にふさわしい音で笛を吹き、歌を歌ったということである。2が正解。

〔問2〕波線部①より前の内容を捉えて文脈をつかもう。

読解のポイント

北の方「物をだにもいはず、目をも見あはせず、うちそばむきてあれば」（3ℓ）
（口さえもきかず、目をも見合わせず、そっぽを向いているので）
⇩
敦兼「何事のいできたるぞや」と、心も得ず思ひゐたる」（3ℓ）
（何事が起こったのだろうかと、納得がいかずに思っていた）

夫の醜さを残念に思った北の方は、夫に対して冷たい態度をとるようになった。しかし、**妻の態度の変化の理由がわからない夫の敦兼（主語）は、「何事か」と納得のいかない思いでいたということ。**3が正解である。

〔問3〕「我らがかよひて見し人」とは誰かをつかむ。この「我ら」は、「我」と同じ意味で「自分」の意。Aの歌の中で「自分」とは敦兼のことだから、「我らがかよひて見し人」とは**「敦兼が通って会った人」で、つまり「北の方」**である。

読解のポイント

「我らがかよひて見し人」
＝「敦兼が通って会った人」＝「北の方」

次に、1～4はそれぞれ誰のことかをつかみ、「北の方」を指しているものを選ぶ。

1「にくさげなる人」（醜い人）＝「敦兼」
2「はなやかなる人」（美しい人）＝**「北の方」**
3「たたむ人」（装束をたたむ人）＝「女房ども」

4 「さしいづる人」（敦兼の前に出てくる人）＝「女房ども」

〔問4〕 波線部③の「なる」は、性質や状態を表す語「優」に付く「なる」であるから、**形容動詞「優なり」の連体形「優なる」の活用語尾**と考えられる。「なり」の識別はよく出題されるから、次のような識別の仕方を覚えておこう。

文法のチェック

「なり」の識別

① **断定の助動詞「なり」**
・体言、連体形に接続する。
例 月の都の人なり。（月の都の人である。）

② **伝聞・推定の助動詞「なり」**
・終止形に接続する。（ラ変型活用語には連体形に接続する。）
例 御女（むすめ）なくなりたまひぬなり。
（御娘が亡くなられたということだ。）
※終止形と連体形が同形の語や、ラ変型活用語に「なり」が付いている場合は、①か②かの区別がつかないので、前後の文意から判断する。

③ **ラ行四段活用動詞「なる」の連用形**
・現代語の「なる」とほぼ同じ意味。
例 翁やうやうゆたかになりゆく。
（翁はだんだん裕福になっていく。）

④ **形容動詞の連用形・終止形活用語尾**
・「なり」の直前は形容動詞の語幹で、ものの性質や状態を表す語。
例 夕日（ゆうひ）の影静かなり。（夕日の光が静かである。）
※「静かなり」で一語の形容動詞。

〔問5〕 歌の最後の「かれにしか」の「かれ」は、和歌の中で多く用いられる「枯れ」と「離（か）れ」の**掛詞**である。

読解のポイント

白菊は**枯れ**てしまったのだよ。
かれにしか
妻の心は**離（か）れ**てしまったのだよ。

この「離れ」は、「男女の仲が疎遠になる」の意。「離る」は重要古語であるから、読み方と意味を覚えておこう。

重要語

「離（か）る」の意味
① （空間的に）離れる。遠ざかる。
② （時間的に）間をおく。
③ （心理的に）よそよそしくなる。

難 〔問6〕 1～4を精読し、問題文の内容と合わない点がないかどうかを検討していく。

1 ×「北の方は、心がふさいで**家に閉じこもっていたが**」
北の方は家に閉じこもっていたわけではない。夫の敦兼が帰宅しても、その醜さを嫌って、自分のみならず、女房たちにも目くばせをして**出迎えをしなかった**のである。
→本文に「夜に入りて帰りたりけるに、出居に火をだにもともさず、装束はぬぎたれども、たたむ人もなかりけり。女房どももみな御前（＝北の方）のまびき（＝目くばせ）にしたがひて、さしいづる人もなかりければ」（5ℓ）とある。

2 ×「敦兼と北の方は、**元々不仲だったが**」
五節（ごせち）の舞を見物に行って、あれこれと**男性で美しい人々がいるのを見てから**、醜い夫を遠ざけるようになり、不仲になったのである。
→本文に「五節を見侍りけるに、とりどりにはなやかなる人々のあるを見るにつけても、まづわがをとこ（＝夫、敦兼）のわろさ心うくおぼえけり」（1ℓ）とある。

3 ×「**華やかな場に出られない**敦兼に失望したが」
北の方は、敦兼の「わろさ」、すなわち**見た目の醜さ**に失望したのである。
→本文に「まづわがをとこのわろさ心うくおぼえけり」（2ℓ）とある。

4 ○
北の方は敦兼の笛と歌を聞いて、夫を嫌う気持ちがすぐに治まってしまい、その後はとりわけ夫婦仲むつまじくなった。
→本文に「（歌を聞いて）心はやなほりにけり。それよりことになからひ（＝夫婦の仲）めでたくなりにける」（12ℓ）とある。